

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	キャリアガイダンス（688）				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail						
連 絡 先	1号館2階 職員室					
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
IT業界で仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授 業 形 態	演 習	教 室	163	補 助 教 員		
授業は、講義と実習を適宜とりまぜて行う。実習には、作文やSPIなど就職試験に直結したものの他、スピーチやディベートなど、基礎的なトレーニングも含まれる。また、履歴書等の作成なども行っていく。一方で、一般的なHRに相当するようなクラス全体としての取り組みも、この枠の中で行う。これは、コミュニケーションのトレーニングという意味を含んでのものである。						
教 科 書 材	配布資料、Thanksドリル					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1回目：働く事とは 2回目：研修会のありかた 3回目：ニュース分析 4～5回目：採用試験対策 6～7回目：企業説明会/ゲームCG関連企業の採用活動の流れ 8回目：求人票の読み方・就職活動先の企業選択 9回目：採用担当者の心理 10～11回目：採用試験対策 12～14回目：SPI/CAB/GAB 15～16回目：採用試験対策 【後期】 17回目：自己PR 18回目：エントリーシート 19回目：企業分析と自己分析 20回目：履歴書作成 21回目：就職活動に適した身だしなみ 22回目：就職活動用のスーツとカバン・靴 23～24回目：採用試験対策 25回目：公欠処理と報告書 26～27回目：ポートフォリオについて/作品提出時の注意 28回目：社会人としての心構え 29回目：採用試験対策 30～32回目：ビジネス会話/敬語/挨拶とおじぎ/名刺の取り扱い		

評価コード	11	
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	コンピュータ基礎 (690)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail						
連 絡 先	6号館 1 階職員室、1号館2階職員室					
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	3	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
基本情報技術者試験の合格を目標とする科目である。基本情報技術者試験は、情報システム開発・運用や利用などの広範な業務を担当する情報処理技術者に対し、その基礎レベルともいべき基本的な知識や情報技術に関する能力を評価する試験である。その出題範囲の中で特に、コンピュータを学習する上で必要となるハードウェア・ソフトウェア及び情報システム戦略・マネジメントの基礎知識を習得する。						
授 業 形 態	講 義	教 室	163	補 助 教 員		
授業は講義形式で行い、随時練習問題を実施する。 また、理解度の確認を行う目的で、定期的に小テストを随時実施する。						
教 科 書 材	ITワールド／IT戦略とマネジメント					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期・ITワールド】 1～2回 コンピュータの基本構成、問題演習 3～7回 コンピュータのデータ表現、問題演習 8～10回 中央処理装置と主記憶装置、問題演習 11～13回 補助記憶装置、入出力装置、問題演習 14～16回 情報処理システムの処理形態、問題演習 17～19回 高信頼化システムの構成、問題演習 20～22回 情報処理システムの評価、問題演習 23～24回 ヒューマンインタフェース、マルチメディア、問題演習 25～26回 ソフトウェアの分類、OS、問題演習 27～28回 プログラム言語と言語プロセッサ、ファイル、問題演習 29～32回 基本情報技術者試験午前対策演習 【前期・IT戦略とマネジメント】 1～4回 企業と法務、問題演習 5～6回 経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ、問題演習 7回 情報システム戦略、問題演習 8～11回 プロジェクトマネジメント、問題演習 12回 サービスマネジメント、問題演習 13回 システム監査と内部統制、問題演習 14～16回 基本情報技術者試験午前対策演習	

評価コード	3
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	アルゴリズム (723)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail						
連 絡 先	3号館2階 職員室					
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
コンピューターでの処理手順をフローチャートと擬似言語で記述できるようにすることにより、プログラミングスキル向上へとつなげる。また、国家試験、各種検定で出題される問題についての対策を行う。						
授 業 形 態	講 義	教 室	153	補 助 教 員		
テキストを使用し、座学形式で実施する。理解度の確認を行う目的で、問題演習を随時実施する。						
教 科 書 材	アルゴリズムとデータ構造					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1回 アルゴリズムの概要 2回 流れ図の基本パターン 3～6回 各種データ構造、問題演習 7～8回 繰り返し処理のアルゴリズム 9回 整数計算の取り扱い 10～13回 配列操作、問題演習 14回 擬似言語の基本パターン 15～16回 探索処理、問題演習 17～19回 整列処理、問題演習 20～22回 文字列処理、問題演習 23～25回 ビット操作 26～32回 基本情報技術者試験対策演習		
評価コード	3	
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	プログラミング技法Ⅰ（724）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail						
連 絡 先	1号館2階職員室					
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	6	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来のITエンジニアとして、プログラミングは必須である。本授業では、C（プログラミング言語）を学習する。Cはさまざまな言語の基礎となるプログラミング言語であり、Cの習得はさまざまな言語の習得にもつながる。また、基本的なアルゴリズムも同時に習得する。Cを学習することにより、自由自在にCによるプログラミングができることを目指す。同時に、1年次秋期または2年次春期の基本情報技術者試験合格も目指す。						
授 業 形 態	講 義	教 室	163	補 助 教 員		
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。						
教 科 書 材	入門 C言語 実数出版株式会社 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回	
【前期】 1～4回 Cプログラムの基礎（定数、データ型）、演習 5～8回 入出力と演算子（画面への出力、キーボードからの入力、演算子）、演習 9～12回 処理の流れ（式と文、分岐、繰り返し）、演習 13～18回 関数（関数、関数の宣言と定義、値渡し、再帰）、演習 19～22回 記憶クラスと通用範囲（記憶クラスと通用範囲、関数と記憶クラス）、演習 23～26回 配列（配列の考え方、1次元配列、2次元配列、関数に渡す配列）、演習 27～32回 ポインタ（ポインタ変数の基礎、ポインタ変数の利用）、演習 33～36回 構造体と共用体（構造体、共用体）、演習 37～40回 ファイル処理（ファイル、ファイル処理）、演習 41～48回 基本情報技術者試験対策演習	
【後期】 49～56回 基本情報技術者試験対策演習 53～58回 標準関数（標準関数の種類、標準関数）、演習 59～64回 プリプロセッサと分割コンパイル（プリプロセッサ、分割コンパイル）、演習 65～70回 プログラム作成演習1 71～76回 プログラム作成演習2 77～82回 プログラム作成演習3 83～88回 プログラム作成演習4 89～96回 プログラム作成演習5	

評価コード	3
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を越えた場合は、60点を越えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を越えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	システムデザイン I (841)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail					システムエンジニアとしてシステム開発全般に関わっている。	
連 絡 先	1号館2階 講師室					
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
システムを構築するために必要な知識を習得する。ウォーターフォール型開発、アジャイル型開発など、各種システム設計技法の基礎知識を座学中心で学んでいく。システムエンジニアとしての知識習得を目的とするとともに、基本情報技術者試験合格をはじめとした、情報処理技術者試験合格も目指す。						
授 業 形 態	演 習	教 室	163	補 助 教 員		
テキストを基に主に座学形式で実施し、システムエンジニアとしてのシステム設計に関する基本スキルを身につける。また、国家資格取得を視野に入れた形の問題演習も同時に行う。						
教 科 書 材	ITワールド／IT戦略とマネジメント					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～6回 システム開発技術（SLCP開発プロセス）、演習問題 7～12回 ソフトウェア開発技術、演習問題 13～16回 基本情報技術者試験対策演習 【後期】 17～22回 システム開発環境、演習問題 23～28回 Webアプリケーション開発、演習問題 29～32回 総合演習	

評価コード	11
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	データベース I (728)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容 システムエンジニアとして社内システムの構築・保守を担当した。	
e-mail						
連 絡 先	3号館2階 職員室					
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	1	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
コンピュータシステムに不可欠であるデータベースについて、その基礎知識を学ぶとともに、データベースを操作する言語であるSQLについても学ぶ。また、データベースの管理等の手法についても学び、システムエンジニアとして必要とされるスキルを身につける。国家資格である基本情報技術者試験取得を目指すとともに、上位資格につながる知識も修得する。						
授 業 形 態	講 義	教 室	165	補 助 教 員		
テキストを使用し、座学形式で行う。国家資格や各種検定取得も視野に入れながら、問題演習も実施する。						
教 科 書 材	ITワールド					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2 単位時間／回 【前期】 1～3回 データベースの概要、問題演習 4～6回 SQL、問題演習 7～9回 いろいろなデータベース、問題演習 10～16回 基本情報技術者試験対策演習		
評価コード	3	
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	データベースⅡ（729）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail						
連 絡 先						
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	3	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
データベースⅠでSQLについて学んだ。 データベースⅡではSQLをさらに深く、かつ実践的に学び、プログラマとして必要な技術の取得を目指す。						
授 業 形 態	講 義	教 室	163	補 助 教 員		
テキストを使用し座学形式で実施。貸与している各自のノートパソコンを使い、実際にSQLを入力・実行することで動作を確認する。						
教 科 書 材	スッキリわかるSQL入門 第3版 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【後期】 1～6回 SQLを始めよう 7～18回 SQLを使いこなそう 19～30回 データベースの知識を深めよう 31～42回 データベースで実現しよう 43～48回 模擬問題	

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	ネットワーク（712）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail						
連 絡 先	1号館2階職員室					
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
ネットワーク技術の代表的なものである、インターネットやLANについての仕組みを中心に、基礎知識を理解していきます。ネットワーク技術は、学校や企業では勿論のこと、一般家庭においても無くてはならないものとなっています。国家試験の基本情報技術者試験においても、ネットワーク技術に関する問題の出題は必須となっています。ネットワーク技術の基礎知識の習得と、基本情報技術者試験で出題される問題への対応を行います。						
授 業 形 態	講 義	教 室	163	補 助 教 員		
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノートパソコンを使った実習も行う。実習で使う題材は、教科書内のものだけでなく、学生イントラネットにあるものを利用する。実習内容（結果）はすべて提出する。提出方法については、その都度説明する。						
教 科 書 材	ITワールド					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～2回 インターネットとそのプロトコル 3回 問題演習 4～5回 ネットワークアーキテクチャ 6回 問題演習 7～8回 LANの基本 9回 問題演習 10～11回 ネットワークの仕組み 12回 問題演習 13～14回 ネットワークの管理 15回 問題演習 16回 総合演習 【後期】 17～19回 LANを構成する機器 20回 問題演習 21～23回 LANの設計 24回 問題演習 25～27回 LANの構築 28回 問題演習 29～32回 実習	

評価コード	3
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	Webデザイン（727）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail						
連 絡 先	6号館1階 職員室					
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
Webサイトの制作に必要な知識（HTMLとCSS）を学びます。 Webサイトの構造を表記するHTMLではユーザーが入力する画面（フォーム）記述方法、デザイン部分を表示するCSSではモバイルサイトに対応したレイアウトの記述方法も理解していただきます。						
授 業 形 態	実 習	教 室	1号館6階 163教室	補 助 教 員		
授業はテキストに従って進める実習形式で行い、理解度を深めるためにオリジナルページの制作も行います。 また、授業毎に提出を行い教員側で理解度を把握します。						
教 科 書 材	スラスラわかるHTML&CSSの基本 SBクリエイティブ株式会社（毎授業で使用） 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1回 HTMLの基礎、制作の準備と基本のHTML 2回 見出し、段落、リスト 3回 リンク、バスの理解 4回 画像の挿入 5回 ページの部分ごとに要素をまとめる 6回 class属性、コメント文 7回 2ページ目以降の作成準備 8回 テーブル 9回 フォーム 10～13回 オリジナルページの作成 14～16回 小テスト、解説 【後期】 17～18回 前期の復習 19～22回 CSSの基本の書式 23～25回 CSSでページのスタイルを調整 26～27回 フロート、テーブル、フレックスボックス 28～29回 フォームのスタイル 30回 モバイルサイト 31～32回 オリジナルページの作成	

評価コード	13
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	ゼミナール I (936)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail						
連 絡 先						
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	3	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
前期に学んだ内容を基に、GUIアプリケーションの制作を行うことにより、プログラミングスキル向上を図る。						
授 業 形 態	実 習	教 室	163	補 助 教 員		
テキストおよびノートパソコンを使用し、GUIアプリケーションの制作が可能なプログラミング言語であるC#を用い、プログラム作成を中心に授業を実施する。						
教 科 書 材	作って覚えるVisual C# 2019 デスクトップアプリ入門 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【後期】 1～2回 Windows用アプリケーションの基礎 Visual Studio Community 2019の基本操作 3～4回 オブジェクト指向プログラミングの考え方 5～6回 プログラム作成の基本を覚える 7～8回 簡単なアプリケーションを作成 9～13回 「タイマー」の作成 14～18回 「付箋メモ」の作成 19～23回 「今日の占い」の作成 24～28回 「間違い探しゲーム」の作成 29～33回 「簡易Gmailチェッカー」の作成 34～38回 「Twitter投稿」アプリの作成 39～43回 「間違いボール探しゲーム」の作成 44～48回 「簡易家計簿」の作成	

評価コード	13
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	Windows 実習 I (934)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail						
連 絡 先	1号館2階 講師室、1号館2階 職員室					
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
パソコンの基本操作からExcel・PowerPointの様々な機能や活用方法など基本的技術と知識を講義します。就職してから役立つような、日々の業務で作成する書類やプレゼンテーションの資料、売上データのグラフなどを作成することにより、単にパソコンが使えるだけでなく、業務の中でパソコンスキルを活かす方法を実習形式で学習します。テキストの内容終了後には、身につけたOfficeソフトの基本的技術と知識を活かし、実際の仕事で応用が利くよう、実務をイメージした補足資料を配付し、演習中心に授業を進めます。						
授 業 形 態	実 習	教 室	163	補 助 教 員		
授業は実習形式であり、実習は、配布しているノート型パソコンを使用する。						
教 科 書 材	Microsoft Office Specialist MOS Excel 365&2019 対策テキスト& 問題集 Microsoft Office Specialist MOS PowerPoint 365&2019 対策テキスト& 問題集 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】Excel 1回 テキスト事前学習 Excel基本操作 2～4回 セルやセル範囲のデータの管理、確認問題 5～7回 数式や関数を使用した演算の実行、確認問題 8回 テーブルの作成、確認問題 9回 ワークシートやブックの作成と管理、確認問題 10回 グラフやオブジェクトの作成、確認問題 11回～13回 模擬演習 14～16回 総合演習 【後期】PowerPoint 17～18回 スライドの管理、確認問題 19～20回 テキスト、図形、画像の挿入と書式設定、確認問題 21～22回 表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入、確認問題 23～24回 プレゼンテーションの管理、確認問題 25～27回 総合演習 28～30回 模擬演習 31～32回 総合演習	

評価コード	13
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科 目 名	資格対策（700）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員					実 務 経 験 内 容	
e-mail						
連 絡 先	1号館2階 職員室					
開 講 期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単 位 数	4	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来のITエンジニアとして、ITの知識・技術の習得は必須である。本授業では、1年次から4年次にかけて、目標となる資格試験の合格を目指すための講座、問題演習を行う。特に国家試験である情報処理技術者試験の合格を目標とする。そのため、前期では情報処理技術者能力認定試験2級1部、修了試験の合格を目指す。 後期では、Microsoftが提供するOffice製品の使用スキルを計るベンダー試験であるMOSの合格を目指す。						
授 業 形 態	演 習	教 室	163	補 助 教 員		
授業は問題演習や模擬試験での学習を主とするが、適宜ノート型パソコンを使った実習も行う。						
教 科 書 材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～8回 セキュリティ技術について 9～10回 セキュリティ技術について問題演習 11～18回 情報処理技術者能力認定試験2級1部 過去問題演習 19～28回 修了試験 過去問題演習 29～32回 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験 過去問題演習 【後期】 33～46回 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験 過去問題演習 47～60回 MOS試験 模擬試験演習 61～64回 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験 過去問題演習	

評価コード	11
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。